



大阪大学

人間科学部 行動学系・教育学系

篠原一光 (しのはら かずみつ)

所在地：大阪府吹田市山田丘 1-2

<http://www.hus.osaka-u.ac.jp/>

Profile — 篠原一光

大阪大学大学院人間科学研究科教授。専門は応用認知心理学。著書は『心理学から考えるヒューマンファクターズ』（共編著、有斐閣）、『現代の認知心理学 4 注意と安全』（共編著、北大路書房）など。



大阪大学は緒方洪庵が1938年に設立した適塾を原点とし、我が国第6番目の帝国大学として1931年に設立された総合大学です。現在は11学部、16研究科、5附置研究所があり、在学者数は学部生約1万5000名、大学院生約8000名、専任教員約1100名という我が国有数の規模を誇っております。その中で大阪大学人間科学部は1972年に設立された、大阪大学の中では最も新しい学部となります。



写真1 正門方向から眺めた人間科学部

「人間科学部」という名称は、現在では大学の学部名称として珍しくはなくなってきましたが、この名前を初めて学部名称として用いたのが本学部です。本学部は心理学、社会学、教育学を柱として、これらの総合的協力関係により現代社会のさまざまな学問的・社会的要請に応え、学際的・総合的な人間科学を構築することを目的として設立されました。いわゆる「文系」「理系」の枠にとらわれず人間や社会を全体的に把握しようという学際性の重視や文理融合の指向性は、設立当時は非常に先進的なものだったと思われませんが、

設立より40年が経過しこれらの理念の重要性は日本の学術の世界で広く認識されるものとなりました。

組織

現在、人間科学部には行動学系、社会学系、教育学系、グローバル人間学系という四つの学系があります。各学系の中には研究分野と呼ばれる研究室があり、心理学に関係する研究室は行動学系、教育学系に所属しています。心理学系研究室として、行動学系には基礎心理学、応用認知心理学、社会心理学、臨床死生学・老年行動学、認知脳心理学・環境心理学、安全行動学、ボランティア行動学、比較発達心理学、行動統計科学、比較行動学があり、教育学系には教育コミュニケーション学、教育心理学、臨床心理学があります。心理学を専門とする講師以上の専任教員数は行動学系が15名、教育学系が8名です。このように本学部では心理学の幅広い領域を学ぶための体制が整っています。なお、行動学系と教育学系にはそれぞれ学部生が約120名と約160名、心理学系研究室の大学院生は約50名と約60名所属しています。

教育・研究体制

人間科学部の学部定員は1学年130名で、学生は全員が人間科学科に所属しています。1年次には豊中キャンパスで、全員がすべての学系の基礎科目など同じ必修科目を履修し、総合的科学与し

ての人間科学の理念を学習します。また、語学や情報処理に関する科目のほか、数学や統計学が必修科目となっています。この時点で、学生は自分が何を自分自身の学習テーマとするのかを決めていません。学生たちはさまざまな内容を幅広く学習することにより自分の学問的興味・関心を見つめ、人間科学の何をさらに深く学ぶかを考えます。

1年次後期より心理学測定、心理学実験といった選択必修科目の履修が始まり、心理学に関心を持つ学生はこれらの科目の受講により心理学を学ぶための基礎的スキルの習得に取り組みます。また、これらの科目の中では各研究室の研究内容を紹介し、どのような領域を研究できるかが周知されるように工夫されています。学生は2年次前期が終了する時点で所属する学系を決定します。ここからは吹田キャンパスに移動して、より専門的な学習に進んでいきます。

行動学系では2年次後期では学生はまだ特定の研究室に所属せずにさまざまな講義を受講し、各研究室で行われている研究の基礎的内容を実験実習の中で体験することによって、自分が何を自らの専門として研究するかを絞り込んでいきます。そして、3年に進級する際に所属したい研究室を決定します。一方、教育学系では2年次後期より特定の研究室に所属し、各研究室のテーマに沿った研

究を行ううえで必要となる知識や研究技法の習得に努めます。

3～4年次は各研究室でより専門性の高い内容を学習していきます。この時期は所属する研究室により教育内容が大きく異なっています。基礎的な実験研究、質問紙や面談による調査、大学外の各種機関・団体あるいは野外といったさまざまなフィールドでの人間や動物の観察研究、統計解析手法の研究等、選択する研究内容によってさまざまな経験を積み重ねます。多くの研究室では、どのような研究テーマを選ぶかは学生に任されているようです。なお、本学部の特徴として、各研究室に複数の教員が所属するとともに、大学院生、学部上級生、またポスドク等さまざまな研究員が同じ場に所属するという、いわゆる「小講座制」に近い体制がとられています。この研究室のメンバー間で密な人間関係が作り上げられており、学生は指導教員から直接指導を受けるのみならず、先輩や同級生との交流の中で研究を深めていきます。そして自ら研究テーマを設定し、卒業論文の作成に臨みます。なお本学部を卒業した人の進路としては約半数が民間企業に就職し、1割程度が公務員になっているほか、教員になる人もいます。また、2～3割程度の卒業生は大学院に進学しています。

本研究科大学院は5年間の博士課程です。本学部より進学する人、他大学を卒業後大学院より入学する人、社会人大学院生、留学生等、バラエティに富んだ大学院生たちが同じ研究室という場で日々研究に励んでいます。研究フィールドとしては大学院生以上のみ参加するものもあり、学部生よりも幅広い研究活動が行われています。大学院生の研究活動を支え

るため、大学院生向けの調査研究助成制度、研究集会参加助成制度など支援制度の整備も進められています。本研究科修了者の進路としては、前期課程修了者では3割程度が後期課程に進学する一方、公務員、民間企業に就職しています。後期課程修了者は4割程度が研究者等になっています。

キャンパスライフ

大阪大学には吹田、豊中、箕面の三つのキャンパスがありますが、人間科学部は万博記念公園に隣接する吹田キャンパスの正門を入ってすぐ右手にあります。人間科学部の建物はキャンパス正門からよく見えるため、大阪大学の顔の一つとなっています。なお人間科学部本館は2011年から2年をかけて耐震改修工事が行われ、内外装が一新されました。建物各部が改修されたほか、1階にはインターナショナルカフェという多目的スペースが設置されました。その他インターネットへのアクセス環境の整備や休憩スペースの整備が行われるなど、国際化対応や利便性向上のための改良が施されています。改修以前の建物しか知らない方であれば、今来ていただくあまりの変わりようにきっと驚かれることと思います。



写真2 インターナショナルカフェでのパーティ

この改修に合わせて研究室の場所も各研究室がまとまりをもち、かつ領域的に近い研究室間での連携がより密になるよう再配置されました。心理学系の研究室では学部生用、大学院生用の部屋が整備され、基本的に制約なく自由に使

えるようになっています。実験室や装置等の設備は各研究室により整備され、充実しています。

吹田キャンパスは低学年教育やサークル活動が行われる豊中キャンパスと異なり、多くの学生でごった返すこともなく、一般的な大学キャンパスのイメージとは異なっています。また行動学系や教育学系の学生はいずれかの研究室に所属することもあり、研究を行っている教員や先輩の大学院生の姿に触れ、研究に打ち込む雰囲気の中で大学生活の後半を過ごすこととなります。このような環境は学部生にとってはつらいものであるかもしれませんが、その一方で自らを見つめ直し、知的成長を促すものにもなっています。また、大学院生は充実した研究環境を活用していくだけでも研究活動に打ち込むことができ、また研究室内外の教員や大学院生と密に接する中で、研究者としての能力を伸ばしていくことができます。このように学年が上がるほど各研究室での生活が大きなウェイトを占めることになるため、本学部の各研究室には人の姿が絶えることがありません。



写真3 大学院生室

本学は規模が大きく、研究・教育活動は非常に活発かつ多岐にわたっているため、その取り組みを2ページで紹介するというのは至難の業です。ぜひ、本学のホームページ等をご覧いただき、各研究室で行われている独自の取り組みに触れていただきたいと思います。